

知っていますか？

HPVワクチン（子宮頸がん予防ワクチン）

子宮頸がんって？

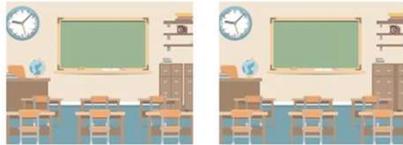
HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が原因で起こると言われているがんです。日本では毎年、**約11,000人**が子宮頸がんになり、**約2,900人**が亡くなっています。30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう（妊娠できなくなってしまう）人も、1年間に**約1,000人**います。早期発見・治療で子宮を温存できたとしても、妊娠出産時のリスクが上がります。

つまりこれってどのくらい？

<一生のうち子宮けいがんになる人>

1万人あたり132人

2クラスに1人くらい

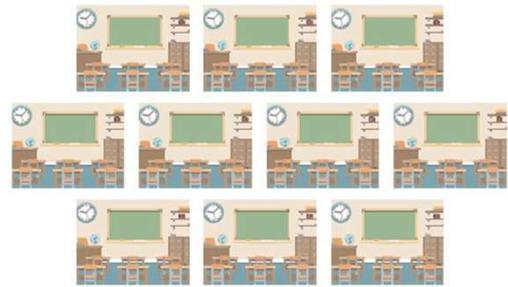


1クラス約35人の女子クラスとして換算

<子宮けいがんて亡くなる人>

1万人あたり34人

10クラスに1人くらい



HPVワクチン接種でHPVの感染を予防できます



今ならワクチン接種が**無料**

無料期間が終わると、接種には、最大**約10万円**かかります。

無料接種	定期接種	小学6年生～高校1年生相当年齢の女性 ※標準的な接種年齢は中学1年生
対象者	キャッチアップ 接種	平成9年4月2日～平成20年4月1日生まれの女性 期間限定！令和7年3月31日まで

接種は2～3回、**標準的なスケジュールでは約6か月**で完了、**最短のスケジュールでは約4か月**で完了することもできます。

無料期間内に接種を完了するために、**早めの接種開始**をご検討ください。



詳しくは、松山市ホームページへ→ → →



ワクチンの効果

HPVワクチンは2価、4価、9価の3種類。

2価、4価のワクチンは子宮頸がんの原因の50～70%を防ぎます。

9価のワクチンは、子宮頸がんの原因の80～90%を防ぎます。

HPVの感染を防ぐだけでなく、がんそのものを予防する効果があることもわかってきています。



ワクチン接種後に現れる可能性のある症状

ワクチンの接種を受けた後に、接種を受けた部位の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあります。まれにですが、重い症状が起こることがあります。重い症状の報告頻度は、接種した1万人あたり3～5人です。

発生頻度	2価ワクチン(サーバリックス®)	4価ワクチン(ガーダシル®)	9価ワクチン(シルガード®9)
50%以上	疼痛*、発赤*、腫脹*、疲労	疼痛*	疼痛*
10～50%未満	掻痒(かゆみ)、腹痛、筋痛、関節痛、頭痛など	紅斑*、腫脹*	腫脹*、紅斑*、頭痛
1～10%未満	じんましん、めまい、発熱など	頭痛、そう痒感*、発熱	浮動性めまい、悪心、下痢、そう痒感*、発熱、疲労、内出血*など
1%未満	知覚異常*、感覚鈍麻、全身の脱力	下痢、腹痛、四肢痛、筋骨格硬直、硬結*、出血*、不快感*、倦怠感など	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血*、血腫*、倦怠感、硬結*など
頻度不明	四肢痛、失神、リンパ節症など	失神、嘔吐、関節痛、筋肉痛、疲労など	感覚鈍麻、失神、四肢痛など

サーバリックス®添付文書(第14版)、ガーダシル®添付文書(第2版)、シルガード®9添付文書(第1版)より改編

*接種した部位の症状

安心して接種できる体制



接種後に体調の変化や気になる症状が現れたら、接種した病院やかかりつけ医に相談してください。必要に応じて協力医療機関につないでくれます。

愛媛県では、愛媛大学医学部附属病院が、ワクチン接種後に生じた様々な症状に対応する協力医療機関となっています。

ワクチン接種の流れ

- ①医療機関を選んで医療機関に直接電話等で予約。
- ②母子手帳と保険証を持って医療機関へ行く。
- ③予診票に記入(予診票は医療機関にあります)。
- ④ワクチン接種!

※母子手帳を紛失している方や、市外で接種希望の方は必ず下記お問合せ先までご連絡ください。



市ホームページ
(医療機関一覧等)



県外接種



相談やお問合せ先

松山市保健所 保健予防課 予防接種担当 089-911-1858

令和6年10月作成